

## ブラジルに行って考えた助産婦の展望



毛利多恵子

(毛利助産所、JICAブラジル母子保健プロジェクト)



昨年、JICAブラジル母子保健プロジェクト助産短期専門家として2回ブラジルで仕事をする機会を得ました。ブラジルは帝王切開率が高い(公立病院で30~40%、私立病院で70~90%)国であり、助産婦のいない国もあります。セララ州というブラジル東北部にこのプロジェクトがあります。医療人類学的な調査の結果、周産期のケアの向上と助産の概念の導入が計画されました。ブラジルでの病院出産の現実をみると、女性たちが出産という深い喜びや知恵を感じられないままなのです。ただ新生児を娩出するという工場のようなです。今回は、出産時のケアについてが主な仕事でした。准看護婦・看護婦・大学教員・看護学部生・産科看護婦・研修医・医学部生・産科医・公衆衛生医にセミナーをする機会をいただきました。内容は情緒的サポートの重要性を選びました。最優先されるケアが情緒的サポート(愛情・受容・共感・そばにいること・尊重すること・脅かさないこと)であることを伝えました。このサポートは出産の経過を順調にし、何より女性が出産というチャンスをいかしてエンパワーメントされていくからです。ひとりの人間を育て慈しむ前に、まず女性自身がどうケアされるかが、女性自身や育児に影響するということを、助産婦は女性たちの声から知っているわけです。

日本の東京のようなサンパウロ州では、州立の助産所ができました。州保健局は、人間が生まれ人生のスタートをきる出生時はどこでどのようなケアを受けるべきかを考え、安全な出生と出産及び人間の成長のためにも、病院という病気を扱う場所ではなく、助産所を

拠点とするプロジェクトをはじめました。貧困街(ファベラ)でドイツ人助産婦が開いている助産所では95%以上の正常出産が行われ、その実態が行政の目にとまったわけです。現在は4年の看護大学教育の後に1年の産科看護婦コースがあります。しかし産科看護婦ではなく助産婦という明確な職種をつくりたいと考えています。また産科看護教育には助産の概念をいれ、看護教育を経ないダイレクトコースも考えたいとのことです。歴史的に人類が始まってから延々と続けられてきた出産、なぜ女性にとって妊娠・出産・育児が人生で重要なのでしょうか?人生の大事な時期をどう援助されて女性はさらに人生を深めていくのでしょうか?出産前後は女性の健康の面でも多くのサインがでる気づきのときであり、人生の縮図がでるときでもあります。身体的なかかわりだけをしていては、何もみえてこないところでもあります。胎児期・新生児期が母体や母親という密接な環境の影響を受けこどもの一生の健康にも影響していくわけです。

医療経済的側面から多くの国がevidence baseな観点でケアの見直しをはじめています。助産婦だけで行うケアは安全で満足度が高く医療経済的にも効果があるというのが通説となってきました。公衆衛生分野が発達している国は、調査結果から政策をかえていこうとしています。これらの結果に勇気ももらい助産婦がもう一度、女性のそばにいることを決意することが、多くの変化をもたらすものと思います。混合病棟化され助産婦自身がアイデンティティをもてずにいること、つま

り産科医と看護婦の葛藤でエネルギーを使い女性とともにケアの決定権をもてない存在では、社会は応援してくれません。実践も教育ももう一度見直す時期にきているのだと思います。人間の生と死を医学だけがコントロールする時代の限界がみえてきたのだと思います。助産の実践の知から自然の摂理から何より対象とする女性とこどもの存在から助産婦

は多くを学んでいるわけです。産科学にも看護学にも説明されていないことがたくさんあるのではないのでしょうか？もうそろそろレンタルルームでなく助産というお部屋で直接社会に対して女性に対して堂々とケアを提供していきたいものです。

最後に、Midwives must go to women, and must go to government.

## 第25回 ICM (マニラ) 大会について



国際担当理事 松本 八重子

第25回 ICM (マニラ) 大会は、1999年5月22日(土)午後4時30分に始まる開会式から、5月27日(木)正午終了予定の閉会式までの会期で、フィリピン国際コンベンションセンター (PICC) で開催されます。

大会テーマは「21世紀の助産と母性の安全」です。

フィリピンの地理的位置等を考慮し、今回は本学会としての見学を伴う参加ツアーは催行しません。わが国で ICM に加盟している他の団体はツアーを計画していますので、希望者はどちらかの団体に問い合わせして下さい。個人参加手続きおよびプログラムの概要(一覧表参照)等をお知らせします。

### ▼個人登録の方法

所定の登録用紙(本学会事務局に、宛名記入、160円切手貼付のA4型封筒を同封して、日数に余裕をもってご請求下さい)にご記入の上、必ず別記登録料を米ドルで銀行小切手、または銀行送金の証明書と同封して、フィリピンの大会事務局まで直接お申し込み下さい。登録の際、出席を希望する学術集会午前の講演、午後のワークショップ、及び学術発表の収録の申込みもして下さい。

登録料	1999年1月29日まで	1月29日を過ぎた場合	大会会場登録デスクで
全日登録	450米ドル	500米ドル	560米ドル
1日登録	100	130	150
同伴者	200	225	250

### ▼登録料に含まれるもの

大会キッド、参加バッジ、開会式・会議・社交行事・展示会・閉会式・レセプションの参加費と歓迎会の飲み物、休憩時間のお茶

### ▼同伴者の登録料に含まれるもの

開会式・展示会・閉会式・レセプションの参加費と歓迎会の飲み物、休憩時間のお茶および市内の半日観光

## ▼登録料の払込み先(大会事務局)

The Secretariat, 25th ICM Congress  
c/o Integrated Midwives Association of Philippines (IMAP), Inc.  
Golden Groove Street,  
Bartville Subd., Barangay Dela Paz  
Pasig City, Philippines  
電話; (+63)645-74-10 Fax番号; (+63)645-71-48/(+63)724-53-35  
銀行; Bank of Philippine Islands  
Commonwealth Branch, Quezon City  
口座番号: 0424-015-09

## ▼登録受けの通知

記入済みの登録用紙と登録料の小切手(または銀行送金の通知書を同封して期日までに大会事務局に送付すると、大会事務局はその受領通知(登録確認証)と登録料の領収証を参加者に返送します。

本登録は、大会場(PICC)の登録カウンターで、登録確認証と領収証を提示して行って下さい。登録確認証が届いていない場合は、銀行の送金取り組み依頼書(小切手作成時に銀行に提出する用紙)のコピーで代用できますので、ご持参下さい。

## ▼当日登録

大会場(PICC)の登録カウンターで手続きをして下さい。

## ▼登録の取り消し

取り消し通知は書面で大会事務局までお送り下さい。1999年1月31日までの取り消しについては、登録料から25%を差し引いた金額を、1月31日から4月30日までの取り消しについては、登録料の半額を返金します。5月15日以後の取り消しに対する払い戻しはありません。また、国レベルの災害により大会が取り消された場合も返金しません。

## ▼空港送迎サービス

ニノイアキノ国際空港から所定ホテルまでの送迎(有料)を希望する方は、登録用紙に記入して下さい。空港連絡員を配備し、送迎の手伝いをします。また、すべての参加者のためにインフォメーションデスクを設置します。

## ▼ホテル予約

大会事務局でも受付けます。登録用紙と共に送付する英文の「大会要項」を参照して下さい。大会は観光シーズン中に当たりますので、わが国の旅行社を含み、早めの手続きをお勧めします。

## ▼大会時の同時通訳について

大会は英語を公用語とし、全体会にのみフランス語、スペイン語、フィリピン語の同時通訳は大会本部で設置しますが、日本語は日本看護協会が窓口となり、参加者に経費を均等負担(従来は約1万円)して頂くことになっています。日本語を使うすべての方に公平にご負担頂き、個々の負担を抑えたいので、個人参加者はすべて同協会の国際部(03-3400-8344)にご連絡下さい。外国語を使う方で、日本語より公用外国語の方が得意という特別な方がありましたら、その際にご相談下さい。

## ▼第25回ICM大会予定プログラム(別紙)

第25回大会から、ICM大会・諸会議の際に研究のための調査を行なうには、あらかじめICMに対して申請を要するようになりました。今春発行予定の「日本助産学会誌」にガイドラインを掲載しますが、マニラ大会で調査を予定している方は、至急ICM本部に申請して下さい。関係資料は、宛名記入の返信用定形封筒に80円切手を貼って学会事務局へご請求下さい。

第25回国際助産婦連盟 (ICM) 大会プログラム

時間/月日	5月22日(土)	5月23日(日)	5月24日(月)	5月25日(火)	5月26日(水)	5月27日(木)
9:00~10:00		基調講演: 女性の健康とリプロダクティブ プライツ(性と生殖に関する 自己決定権)のバランスの とれた展望を求めて	基調講演: 健康は子どもの権利	基調講演: 21世紀の母性の安全:世界 的展望	基調講演: 伝染病の予防と制御:助産 婦の役割	基調講演: 助産実践の基盤としてのケ ア
10:00~10:00		—コーヒーブレイク—	—コーヒーブレイク—	—コーヒーブレイク—	—コーヒーブレイク—	—コーヒーブレイク—
10:30~12:00		講演:テーマ; 女性の健康増進:女性のリ プロダクティブプライツ:定義 と将来展望 乳幼児、児童の健康増進: 予防接種プログラムの拡大 安全な母性:3か国におけ る安全な母性プログラム 伝染病:STD(性感染症) に罹患している女性:助産 婦への繰り返される懸念 助産教育:助産教育:展望 と期待 カウンセリング:遺伝学にお ける現在の概念:遺伝性疾 患の出生前診断	講演:テーマ; 女性の健康増進:女性のラ イフサイクルの理解 乳幼児、児童の健康増進: 子どもの権利と促進 安全な母性:各国における 安全な母性 伝染病:HIV/AIDSの 人々をケアする者としての 助産婦 助産教育:助産教育と法律 カウンセリング:障害のある 女性と生活の質	講演:テーマ; 女性の健康増進:家庭内暴 力と女性 乳幼児、児童の健康増進: 少女:母性性と健康 安全な母性:経済再建の安 全な母性への影響 伝染病:妊娠・分娩・産褥 期と新生児期の感染予防 助産教育:アジア太平洋地 域の助産教育 カウンセリング:カウンセリ ングへの準備	講演:テーマ; 女性の健康増進:女性性器 切除 乳幼児、児童の健康増進: 5歳未満の呼吸器感染の防 御 安全な母性:母親と赤ちゃ んに優しい病院の提唱 伝染病:ケアする人の保護 助産教育:世界的規模での 助産技術の獲得 カウンセリング:先天性障害 のための	閉会式 1996~1998年のICM報告 会長退任挨拶 新会長の就任挨拶 ICM新役員紹介 次回大会へのお誘い
12:00~13:00		—昼食休憩—	—昼食休憩—	—昼食休憩—	—昼食休憩—	
13:30~15:00		分科会/ワークショップ	分科会/ワークショップ	分科会/ワークショップ	分科会/ワークショップ	
15:00~15:30		—コーヒーブレイク—	—コーヒーブレイク—	—コーヒーブレイク—	—コーヒーブレイク—	
15:30~17:00	(16:30~21:30) 閉会式 歓迎挨拶 会長演説 閉会儀式	分科会/ワークショップ この日のワークショップの テーマ :倫理 :法規(適格性と業務基準)	分科会/ワークショップ この日のワークショップの テーマ :研究	分科会/ワークショップ この日のワークショップの テーマ :助産教育 ;開発途上国における小ビ ジネスとしての助産実践	分科会/ワークショップ この日のワークショップの テーマ :助産実践:女性性器切除 ;助産婦学生フォーラム	

## 母子保健・助産婦教育・助産婦業務に関連する諸般の動向

## 1. 厚生科学審議会について

平成9年5月：厚生科学審議会がスタートする

厚生省所管の科学技術に関する事項の審議を行う

7月：厚生科学審議会の下に2つの部会を置く

(1) 先端医療技術評価部会

先端科学技術を医療分野に適用する場合の問題について審議を行う

(2) 研究企画部会

厚生省の所管する科学技術について、どのような分野の研究を進めていくか、またどのような研究体制をつくっていくかという問題についての審議を行う

平成10年10月：先端医療技術評価部会の下に2つの専門委員会を置く（2年間の予定）

(1) 生殖補助医療技術に関する専門委員会

不妊治療等の生殖補助医療技術に関する倫理性、安全性、法的問題についての審議を行う

(2) 出生前診断に関する専門委員会

胎児の出生前診断、遺伝子診断に関する問題点の整理と今後の技術の適用のあり方についての審議を行う

\* 先端医療技術評価部会 13名

部会長：高久 史磨（自治医科大学学長）

委員：軽部 征夫（東京大学先端科学技術センター教授）

木村 利人（早稲田大学人間科学部教授）

柴田 鐵治（株式会社 朝日カルチャーセンター社長）

曾野 綾子（作家）

寺田 雅昭（国立がんセンター研究所長）

入村 達郎（東京大学薬学部教授）

加藤 尚武（京都大学文学部教授）

金城 清子（津田塾大学学芸学部教授）

廣井 正彦（山形大学医学部付属病院院長）

松田 一郎（熊本大学名誉教授）

森岡 恭彦（日本医師会副会長）

山崎 修道（国立感染症研究所長）

\* 生殖補助医療技術に関する専門委員会 9名

委員長：中谷 瑾子（慶応大学名誉教授）

委員：石井 トク（岩手県立大学看護学部教授）

石井美智子（東京都立大学法学部教授）

加藤 尚武（京都大学文学部教授）

辰巳 賢一（梅が丘産婦人科副院長）

田中 温（セントマザー産婦人科医院院長）

丸山 英二（神戸大学法学部教授）

矢内原 巧（昭和大学医学部教授）

吉村 泰典（慶応大学医学部教授）

\* 出生前診断に関する専門委員会 8名

- 委員長：古山 順一（兵庫医科大学医学部教授・先端医学研究所長）  
 委員：安藤 広子（日本赤十字看護大学助教授）  
 鈴森 薫（名古屋市立大学医学部教授）  
 武部 啓（京都大学名誉教授）  
 寺尾 俊彦（浜松医科大学副学長）  
 長谷川知子（静岡県立子ども病院遺伝染色体科医長）  
 松田 一郎（熊本大学名誉教授）  
 山田 卓生（日本大学法学部教授）

- \* 専門委員会には、それぞれ1名ずつ助産婦が参加しています。
- \* 専門委員会の議事録はインターネットで公開しています。また、ご意見も受け付けています。（文責 平澤）

◆◆ ICMセーフマザーフード（母性保健）募金の御礼 ◆◆

会員の皆様にご寄付の基金をお願い致し、昨年12月末で締め切らせて戴きました。基金は57名、1団体の方々から506,000円募金戴きました。募金下さいました会員の皆様のご厚意を心から厚く御礼申し上げます。

\* 募金下さいました方々の団体名と氏名を掲示します（順不同）

徳島国際助産婦の日事業促進会	安 倍 本 子	山 下 浩 子
熊 沢 美奈好	安 宮 中 文 子	川 上 幸 子
小 笹 由 香	青 木 康 子	澤 田 貴美子
賀 久 は つ	恵 比 須 文 枝	田 邊 美智子
岡 本 里 美	筒 井 教 子	立 山 サナミ
斉 藤 育 子	若 松 かをい	須 藤 桃 代
森 川 久美子	河 児 直 美子	未 原 紀美代
平 澤 美恵子	瀧 澤 和 子	岩 木 宏 子
内 藤 和 子	澤 井 秀 子	藤 田 八千代
松 岡 恵 子	松 尾 文 美	石 原 昌
内 山 和 子	高 橋 弘 枝	田 中 千登世
今 関 節 子	丸 山 和 子	武 井 とし子
小 牧 敏 子	官 城 万 里子	菅 井 沼 ひろ子
坂 井 明 美	高 橋 弘 子	千 葉 政 子
三 井 政 子	斉 藤 純 子	萩 野 下 教 子
長 嶺 美津子	佐 々 木 和 子	森 田 せつ子
五 井 夕 香	高 田 昌 代	藤 村 美 保
近 藤 潤 子	竹 内 美恵子	加 藤 尚 美
宮 里 和 子	小 木 曾 みよ子	
松 本 八重子	麻 生 慶 子	



### 第13回日本助産学会総会開催のお知らせ

会員各位

第13回日本助産学会総会を下記のように開催いたします。万障お繰り合わせのうえご出席くださいますよう、ご案内します。

日本助産学会  
理事長 近 藤 潤 子

記

1. 日 時 1999年5月4日(火)12:30~13:20
2. 会 場 札幌市教育文化会館 1階大ホール  
札幌市中央区北1条西13丁目
3. プログラム
  - 1) 平成10年度活動報告・収支決算報告審議
  - 2) 平成11年度事業計画案・収支予算案審議
  - 3) 第15回学術集會会長の承認

\*総会要綱は当日受付にて受け取り総会に臨んでください。

\*学会本部コーナーにて会費(平成11年度および未納年度)の受付、入会案内の配布、学会誌バックナンバーの販売をします。ご利用ください。

### 第13回日本助産学会評議員会開催のお知らせ

評議員各位

第13回日本助産学会評議員会を下記のように開催いたします。他事多端の時期ではありますが、ご出席のため万障お繰り合わせくださいますよう、ご案内します。

日本助産学会  
理事長 近 藤 潤 子

記

1. 日 時 1999年5月3日(月)11:10~12:40
2. 会 場 札幌市教育文化会館 3階特別会議室  
札幌市中央区北1条西13丁目
3. プログラム
  - 1) 平成10年度活動報告・収支決算報告審議
  - 2) 平成11年度事業計画案・収支予算案審議
  - 3) 第15回学術集會会長の選出

\*当日は昼食を用意します。



# Japan Academy of Midwifery

## 第13回日本助産学会学術集会のご案内 (第3報)

学術集会会長 丸山 知子

現在、行政の機構改革に伴う地域母子保健事業の変化、地域社会の保健医療ニーズの変化と多様化等、コミュニティベースが大きく変化しております。“Community-based maternity care”の観点から21世紀にむけて“生活の中で生きる専門職としての助産婦”を皆様と共に探求していきたいと考えております。下記の日程で開催を予定しておりますので、多くの方々のご参加を心からお待ちしております。

1. 期 日 1999年5月3日(月)～4日(火)
2. 会 場 札幌市教育文化会館 (札幌市中央区北1条西13丁目)
3. プログラム概要

### 第1日 5月3日(月) 12:50～17:30

- \*会長講演 「生活に根ざした助産婦活動の方向」  
座長：若松かをい (鹿児島純心女子大学看護学部)  
演者：丸山 知子 (札幌医科大学保健医療学部看護学科)
- \*特別講演 「国際的視野における助産婦活動の展望」  
座長：近藤 潤子 (天使女子短期大学)  
演者：Margaret Peters (ICM理事長)
- \*シンポジウム 「地域とともに歩む助産婦活動を探る」  
座長：今関 節子 (群馬大学医学部保健学科)  
良村 貞子 (北海道大学医療技術短期大学部専攻科)  
シンポジスト：顧客の立場 駒井秀子 (いしかり文庫主宰)  
専門家の立場 松岡悦子 (旭川医科大学社会学)  
助産婦の立場 森 妙子 (開業助産婦)

### 第2日 5月4日(火) 9:30～16:30

- \*ワークショップ
- テーマ① 助産婦教育とクリティカルシンキング  
コーディネーター：竹内美恵子 (徳島大学医療技術短期大学部専攻科)  
演者：村本 淳子 (三重県立看護大学)  
岩木 宏子 (長崎大学医療技術短期大学部専攻科)
- テーマ② 地域母子保健と助産婦活動  
コーディネーター：岡本喜代子 (日本助産婦会事務局)  
演者：高本 厚子 (札幌市中央保健センター)  
春日井六実 (釧路マタニティーアイ)
- テーマ③ 施設内における助産婦活動の改革  
コーディネーター：村上 睦子 (日本赤十字社医療センター看護部)  
演者：佐藤 真澄 (天使病院看護部)  
清野喜久美 (月寒グロリアクリニック)
- テーマ④ 母子ケアの質の評価  
コーディネーター：新道 幸恵 (神戸大学医学部保健学科)  
演者：野口 真弓 (長野県立看護大学)  
大山 愛子 (虎の門病院)



テーマ⑤ 助産婦の技と伝承

コーディネーター：菅沼ひろ子（宮崎県立看護大学）

演者：瀧澤 和子（瀧澤助産所）

庄 曜子（さくら助産院）

\* 一般演題発表：口演・示説（ポスターセッション・ビデオセッション）

4. 日程概要

時分→		12:50	13:40	16:10	17:30	18:00	20:00
第1日		会長講演	シンポジウム	特別講演		懇親会	
第2日	ワークショップ	昼食	総会	一般口演			
	9:30	11:30	12:30	13:30	16:30		

5. 参加費について

1) 学術集会参加費 ①会員9,000円 ②非会員10,000円 ③学生4,000円（但し大学院生は除く）

2) 懇親会参加費 : 8,000円

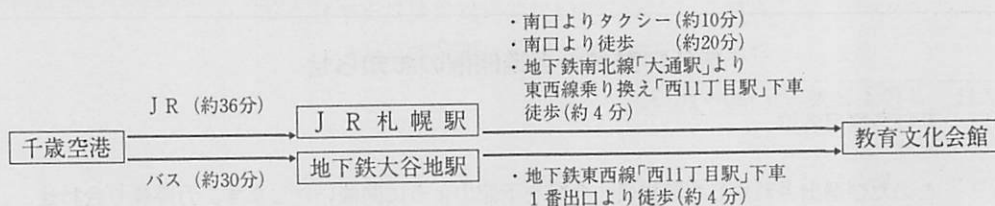
☆学術集会には、本学会に入会されていない方や、助産婦学生の方も参加できます。参加ご希望の方は、郵便局にてお振り込み下さい。郵便振込での参加申し込みは、4月2日で終了させていただきます。当日参加も可能ですので、多数の方々のご参加をお待ちしております。

☆振込先：郵便振込口座番号 02710-9-48485

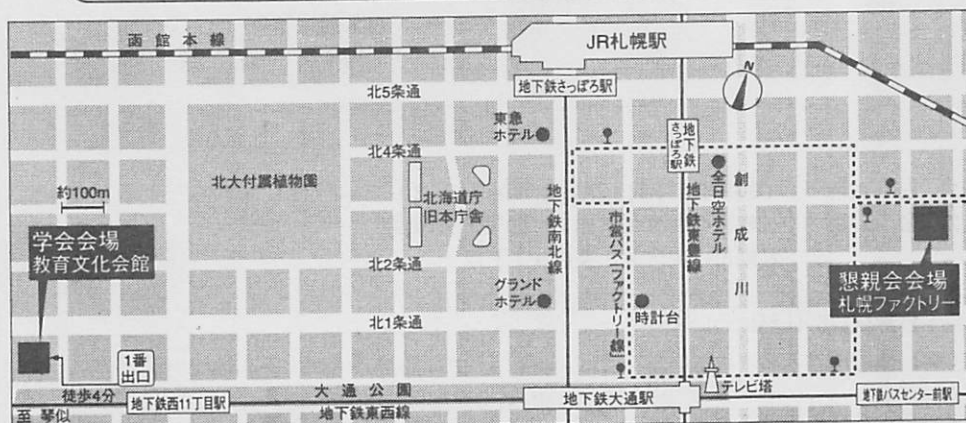
加入者名 第13回日本助産学会学術集会

6. 会場へのご案内

札幌市教育文化会館 札幌市中央区北1条西13丁目 TEL011-271-5821



会場付近略図



<連絡先> 〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目 札幌医科大学保健医療学部看護学科  
 第13回日本助産学会学術集会事務局 Tel / Fax 011-621-7888

新任理事・監事会議開催のお知らせ

新任理事・監事各位

このたび選出された第5期理事・監事の会議を下記のように開催します。万障繰り合わせてご出席くださいますようお願いいたします。

日本助産学会  
理事長 近 藤 潤 子

記

1. 日 時 1999年5月3日(月)9:10~9:40
2. 会 場 札幌市教育文化会館 3階特別室  
札幌市中央区北1条西13丁目
3. 議 事
  - 1) 次期理事長・副理事長の選出
  - 2) その他

新任評議員の会議開催のお知らせ

新任評議員各位

このたび選出されました評議員の会議を下記のように開催いたします。万障繰り合わせてご出席くださいますようお願いいたします。

日本助産学会  
理事長 近 藤 潤 子

記

1. 日 時 1999年5月4日(火)11:30~12:20
2. 会 場 札幌市教育文化会館 3階特別会議室  
札幌市中央区北1条西13丁目
3. 議 事
  - 1) 評議員の任務について
  - 2) その他

\*当日は昼食を用意します。

## 第11回日本助産学会ワークショップ報告



学術振興委員長 竹内 美恵子

第11回日本助産学会ワークショップは、平成10年11月15日(日)鹿児島大学医療技術短期大学において、下記のプログラムにより実施した。

今回のワークショップは、実践研究上の課題を設定する領域、既存の研究論文を検討する領域の2つを設定した。既存の研究論文の検討は、研究が研究としての要件を満たしているか、文献を批判的に熟読する過程を通して、研究遂行能力を発展させる一つの方法である。

さて、今回のワークショップは、第14回日本助産学会学術集会在平成12年に鹿児島純心女子大学看護学部の若松かをい教授のもとで開催されることもあり、会員の方々のご参加と温かいご協力を頂いた。特に、鹿児島大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻の嶋田紀膺子教授をはじめ鳥越郁代先生、鹿児島大学医学部保健学科の佐々木くみ子先生には、会場の準備・運営に始まり、献身的なご援助を頂いたことにより、第11回ワークショップを実施した。

ワークショップは、本学会近藤潤子理事長より、学術学会として本学会のめざす方向が示され、続いて近藤理事長による「助産学研究の動向」の講演を36名の参加者が聴講した。

続いて、研究領域別の討議に入り、前述の既存の研究論文の検討は、「新生児の泣き」「産婦に生じる眠気」「分娩環境に生じる音」など助産実践上の問題が発生しやすい生活場面での研究テーマが取り上げられた。コーディネーターより、研究タイプ別にどのようにクリティークするかの助言を受け、参加者は既存の研究論文について、状況や現象、疑問、問題などが探究されているか、また、利用できる情報をすべて統合することにより、説得力のある正当化可能な仮説や結論が導き出されているか等、文献の批判的な読み方を中心においた討議がすすめられた。コーディネーターには、新生児領域を広島大学医学部保健学科の横尾京子先生、産婦を対象とする領域では、高知女子大学看護学部、岸田佐智先生にご担当頂いた。また、「助産学研究の基礎」として、研究の構造や機能に相当する領域は、京都大学医療技術短期大学の柳吉桂子先生、長崎大学医療技術短期大学の岸英子先生が担当された。岸英子先生担当の「妊娠を対象とした領域」では、早くも継続的な研究テーマが設定され、研究チームとして実際の活動計画が示された。今回の新たなテーマとして、「性教育・指導に関する研究領域」が、鹿児島大学の嶋田紀膺子先生の研究モデルを基に、この領域の研究をどのように発展させるかが話された。このテーマは、将来に向けて鹿児島大学医療技術短期大学部専攻科助産学の研究室との共同研究によって発展していくことが期待されるグループであった。

さて、助産学研究のめざすものは、その実践を向上させることによって、対象者に提供されるケアサービスを最大限に効果あるものにするものである。しかし、研究の課題となる助産ケアの問題の多くは複雑で、いくつかの問題を共同研究の形で取り上げることが必要となっている。将来に向けて、大学を基盤として、周到な計画や経費、時間的制約を補完しあい、連携・協力するための共同研究がより積極的にすすめられることが必要であるとおもわれる。

本学会のワークショップの開催を通して実感したことは、科学的な専門職業人としての位置を確かなものにするために、臨床にいる助産婦の方々が研究を職業的役割として受け入れていることであった。本学会のワークショップの開催地は、会員の少ない地域を選択し継続してきたが、この意図はあらゆるレベルで研究的手法を獲得するための準備が必要であるとの視座によるものであった。

助産実践は自律的でなければならない。研究はこの目標への有効な一つの道である。この助産学研究のめざすものは、その実践を向上させることによって、対象者に提供されるケアサービスを最大限に効果あるものにするものである。ワークショップの取りあえずの課題は、助産実践に有用な変化をもたらす価値ある研究を行うために、広く会員に活用して頂くことである。

そのためには、新たなワークショップのあり方を検討する時期でもあると考えている。

最後に、重ねて鹿児島大学医療技術短期大学部島田紀子教授並びに鳥越先生、佐々木先生、第14回日本助産学会学術集会会長若松かをい教授はじめ鹿児島県助産婦会会長、小牧敏子先生他企画委員の方々に深甚の感謝を申し上げる次第である。

#### ワークショッププログラム

全体テーマ 助産学研究の実際

#### 1. 基調講演 10:00～11:00

助産学研究の動向

近藤 潤子 日本助産学会理事長

#### 2. ワークショップ 11:05～15:30

##### (1) 助産学研究の基礎 研究課程

コーディネーター：柳吉 桂子（京都大学医療技術短期大学部）

##### (2) 妊娠を対象とした領域

コーディネーター：岸 英子（長崎大学医療技術短期大学部）

##### (3) 性教育・指導に関する研究領域

コーディネーター：嶋田紀子（鹿児島大学医療技術短期大学部）

##### (4) 新生児を対象とした研究

コーディネーター：横尾 京子（広島大学医学部保健学科）

##### (5) 妊婦を対象とした研究領域

コーディネーター：葉久 真理（徳島大学医療技術短期大学部）

##### (6) 産婦を対象とした研究領域

コーディネーター：岸田 佐智（高知女子大学看護学部）

### ◆◆◆ ICMセーフマザーフード（母性保健）基金再募金のお願い ◆◆◆

ICM第25回大会のスポンサー・ア・ミッドワイフ（SAM）は、資源の乏しい国の助産婦が評議会における国際的政策決定や、大会前のワークショップに参加して、大会中に世界の助産婦と学び会い、帰国後、自国の地域でセーフマザーフード実現のために変革を起こすために必要な大会参加基金です。

本年は、1人平均3,500英ポンド（約875,000円）です。12月末で戴きました基金額は506,000円ですので、まだ370,000円不足です。目標額に達するまで皆様のご協力をお願いいたします。3月末日までに1人何口でも結構ですので宜しくお願い申し上げます。

<p>日本助産学会 ICMセーフマザーフード基金 口座番号：00240-8-6818 一口：2,000円</p>
--

### 事務局だより

- \* 貧しい国の助産婦の ICM大会参加のために、皆様の基金をお待ちいたしております。
- \* 第13回日本助産学会学術集会の諸準備が着々と進められ、プログラムの概要もできあがっている様子です。5月の北海道を訪ねて助産婦の研究・業務・教育について多角的な視野から討論いたしましょう。
- \* インフルエンザが猛威を振っております。忙しい時期ですのでお互いに健康に留意しましょう。